

一人ひとりを伸ばすために、教師は何をすべきか

—子どもが満足する授業を行うことはもちろんであるが—

講 師 関根 廣志 氏

(新潟市教育委員会中央教育支援センター嘱託指導主事)

日 程 12月6日(土)

第1回 10:20~12:00 中京大学名古屋キャンパス 523教室

第2回 14:00~15:40 中京大学豊田キャンパス 411教室

関根氏は、新潟県公立中学校社会科教員として教師生活をスタート、実践で活躍されると同時に、新潟県教育センター指導主事、新潟県教育庁義務教育課管理主事、同・中越教育事務所所長などを歴任後、新潟市立寄居中学校校長として素晴らしい学校を作り上げた実績をお持ちです。現在は教育支援センターで、主に若手教員の指導にあたっておられます。

『講座 自主協同学習』(明治図書 1981)を共同執筆されているように、子どもの主体的・協同的な学びを、授業にとどまらず、特別活動、生徒指導まで一貫性と統合性を持って実現していく挑戦を重ねてこられました。

最近の著書には『教師力を向上させる50のメッセージ』(学事出版 2013)、『続・教師力を向上させる50のメッセージ』(東京プリント社 2014)などがあります。

この講演では、授業を軸とした、学校での子どもの成長機会を、教師がどう支援していけばよいのか、そのためには「一人ひとりの子どもに寄り添い支援する」という視点と「温かく伸び伸びできる学級集団をつくる」という視点が必要であり、それを行動に移すにあたっての基本となる考え方を示していただけるはずで、これから教職に就こうとする若者、戸惑いの多い若手の教員、さらには、自分の実践を改めて振り返りたい経験ある教員、教育を実践の視点から理解してみようとする一般の方々。それぞれ、この講演の、実践に即した内容から得られることがらは多いはずで、教職課程受講学生はもちろん、教育に関心をお持ちの方は是非ご参加ください。

問い合わせ先：国際教養学部教授 杉江 修治